



板橋区議会議員

区政報告レポート▶▶▶ 2017年1月発行

山田たかゆき



ごあいさつ

あけましておめでとうございます。昨年は映画のヒット作が続き、映画館に足を運ばれた方も多くいるのではないのでしょうか。「シン・ゴジラ」では、ゴジラが大暴れして、随分と東京を破壊してくれました（幸い板橋は無事でした）。

私は、今年、3つの「シン」を一年のテーマとしたいと思います。

1つ目は、前進の、進歩の、進化の、「進」です。なすべき仕事を責任もって進めていく、また仕事の仕方を省みて、改善をはかることができます。進歩を重ねて、飛躍の年としたいです。

さらに2つ目は「心」です。現場に足を運び、困っている方の気持ちに寄り添い、助けることができる区議になれるように精進します。初心を忘れずに、皆さまの応援を力にして仕事に取り組みます。

そして「信」です。1つ1つの仕事を丁寧に、適切に行い、信頼を得たいと思います。信じたことをやり抜く信念、強い気持ちをもって頑張り抜きます。

思い切り振り抜いて、「神ってる!」そう思える活躍ができるように、自分に期待をかけて年頭の抱負とさせていただきます。「シン・ヤマダ」、板橋で暴れます。宜しくお願い致します!!



●プロフィール

山田 貴之（やまだたかゆき）

1976年7月生まれ

1983年 サンシティ聖母幼稚園卒園

1989年 板橋区立緑小学校卒業

1992年 板橋区立志村第四中学校卒業

1995年 都立小石川高等学校卒業（047F）

2000年 日本大学芸術学部卒業

2002年 ワシントン州立大学 留学

2003年 日本大学大学院芸術学研究科卒業
美術館学芸員（5年）
営業職（3年）

2011年4月 板橋区議会議員 初当選

2014年5月 板橋区議会議員 2期目当選

現在、妻と長男（6歳）と長女（3歳）と
板橋区中台在住



針金で出来たドラゴン、クレパスで描かれるヌードデッサン、抽象的な折り紙、躍動感のある相撲の絵、いろいろな作り方で出来上がっています。水谷さんの紙で作られた電車オブジェは、連結部分も

TOKYO BRUIT 障害者の芸術活動支援モデル事業

本事業は、芸術活動を行う障害者、ご家族、芸術活動の支援者を支援することを目的とする厚生労働省の補助事業です。板橋区役所での展覧会開催に尽力し、実現しました。

丁寧な紙で作られています。多くの来場者が個性的な作品の数々に驚いていました。

作家の佐野奈津美さん（板橋区中台サンシティ在住）と坂本健区長を敬訪問し、優れた才能のさらなる支援を要望しました。



耐震・バリアフリー改修工事について 墨田区役所視察

板橋区においても耐震補強工事助成制度の活用がなかなか進みません。板橋区内には区が指定する木造住宅密集地域があり、震災時の家屋倒壊や道路閉塞を防止するために耐震化助成を行ってきま

した。条件に当てはまれば、しかるべき事前申請をしていただ



き、工事完了後に助成金が支給されます。しかし、全体の工事費用が高いことから、相談、耐震診断、工事と意思通りにはなりません。河野ゆうき都議に同行して、墨田区の防災まちづくりの取り組みを視察しました。墨田区では、バリアフリー改修時に、耐震改修もあわせて行うように誘導する政策を

行っています。NHK時論公論でも紹介されました。

バリアフリー改修では、手すりやスロープをつける際に壁を取り、補強壁をつける場合があります。どうせなら、一緒に筋かいなどを施工してもらって耐震化しましょうというもの。実施し始めた平成23年から、確実な成果があり、最終的な耐震化件数も増えていました。その他、関連政策、課題も伺いました。災害に強いまちづくりのための参考として、板橋区でも生かしていきます。

蕨駅西口地区の市街地再開発事業視察

まちづくり調査特別委員会では、板橋区で計画が進む再開発事業についての審議をします。高島平、上板橋、大山の再開発事業や東上線連続立体化事業が主な議題です。最終的には、提言書をまとめて、行政側の検討を求めます。視察では、蕨市へ赴き、駅前再開発事業についてのレク

チャーを受けました。公民館や保育園やホールを備えた中層の分譲マンションが建ちました。30階約285戸、若い世代の定住、住民税の増収、にぎわいの創出、防災備蓄の拡充が実現し、さらに駅前の整備が進んでいる真つ最中で

アーバン デザインセンター 高島平の設立

昨年11月6日、UDCTak（アーバンデザインセンター高島平）が設立されました。高島平1丁目から9丁目までの、都営地下鉄三田線の西台駅から西高島平駅にまたがる地域の再開発の文字通り中心としての役割が期待されている組織です。まずは散策道や公共用地の再整備が迫ります

という困難な課題に対して、歴史を共有する努力を求めました。高島平はかつて憧れの集合住宅でした。また、地下鉄三田線は華々しく開通し、通勤通学の足となりました。ぜひ、識者にも住民にも歴史を共有して頂いて、未来の高島平を考えてもらいたいと要望しました。温故知新です。建て替えやその合意形成の手法を学び、経験を将来、地元サンシティで生かしていきます。まちのプライドを再構築する、力になりたいです。



が、社会情勢の変化が早く、10年先も見通すことが難しい現代です。未来への希望と不安が入り混じった船出です。で、舵取りの手腕が期待されます。

議会活動報告

【決算調査特別委員会(企画総務分科会)】質疑要約・抜粋

【基金残高について】

Q 山田貴之

今年度も例えば義務教育施設整備基金が約30億円、積み増しをされて、160億ほどの基金になっています。平成28年3月31日の時点では、

132億ですけれども、この基金の今後の活用方針、積み増した背景の説明を。

A 財政課長

今後76校のうち、(中略)事業量を考えますと、正確な数字というものは、今後10年の部分です。出せませんけれども、120億以上の経費がかかるだろうというように思っております。その各事業の1校当たり2分の1程度は基金対応をしないと、一般財源を圧迫してしまいます。

それと、起債も十分に活用しなければいけないというようには考えておりますけれども、起債は後年度負担がかかってくる(中略)、ある一定程度は、基金のほうは積み増していきたいというように考えてございます。

*起債：国や地方自治体が資金調達のために、債権の発行をすること。

Q 山田貴之

義務教育施設の整備基金に関して、今後増えるであろう更新の需要にしっかりと耐えていくために、目標を持ってしっかりと積み増しを進めていただきたい。(中略)財政調整基金の現状の残高と今後の基金の方針を教えてください。

A 財政課長

今現在、義務教育費も含めて、基金の活用計画について検討している最中なので、正確な数字はお話しすることはできませんけれども、財調基金に関しては、23区の平均でいきますと大体今265億ぐらいが、どんな小さい区であってもその程度積み立てているというのが27年度末の決算数字で出てきていると捉えております。

板橋区がその額を目指すとか、そういったことは今、申し上げられませんけれども、

ある一定程度、景気の波に耐え得るだけの財力、その準備は必要であると考えてございます。

*補足：平成27年度中に6億6000万円の積立てを行った結果、財政調整基金の平成27年度末残高は190億円を上回った。

【学校リフォーム 改修について】

Q 山田貴之

(前略)老朽化が進んでいる学校があり、改築された学校と比較すると公平な義務教育環境として課題がある。子どもたちにとっては、小学校であれば6年間、中学校であれば3年間、多くの時間を過ごすところであって、生活空間としてやはりある一定程度

の質を担保していく必要はあるのではないかと。

A 教育営繕担当課長

(前略)内部の手入れがない学校というのは、改築した学校と教育環境としてはまた平等なのかというところも教育委員会の中では議論しておりますので、その意見を尊重しつつ、学校さんの要望等も踏まえた上できちんと対応させていただきたいと考えております。

*その他、建築・設備工事の発注について、罹災証明書の発行について等を質疑しました。

*「板橋区議会会議録」
(http://asp.db-search.com/itabashi/) で、質疑の全文をご覧いただけます。

第3回定例会(10月)

10月、第3回定例会、すべての議案の審議を終えて閉会しました。平成27年度板橋区一般会計歳入歳出決算、他3特別会計について、決算調査特別委員会の決定通りに認定

となりました。審議を通じて、議会側からの提案や指摘を踏まえて、平成29年度以降の行財政に反映されるか否かを注目します。



